

市民が主役の市政を実現する会ニュース

- 発行：市民が主役の市政を実現する会 ●発行日：2025年1月1日
- 代表：桜井 美德 ●お問い合わせ：090-6473-3172(三田 登)
- ホームページ <https://yachiyo-syuyaku.net> QRコードからアクセス➡



八千代医療センターの常勤医不在・休診問題の早期解決を

早期解決を求める 第2次署名を 服部市長に提出



服部市長に署名を
渡す桜井代表ら

八千代医療センターは地域医療の中核病院としての役割を果たせ

八千代市が100億円を投資して東京女子医大を誘致し、八千代医療センターが創設されてから18年。順調に運営されてきましたが、創業一族の岩本絹子氏が2019年から本院の理事長になってから医師や看護師の大量離職が続きました。

原因は、これまで市民が主役の会が繰り返し訴えてきたように、岩本理事長と理事会による営利主義と、過剰労働や異論を唱える職員へのパワハラ、降格、減給などの強権支配によるものでした。

事態は本院に留まらず傘下の八千代医療センターにも波及しました。この4年間は内科系5科の常勤医不在と休診などによって診療崩壊に向かうものでした。その証拠に延べ患者数は2019年の27万人台から2023年には18万人台と9万人も減少しており、明らかな患者離れを起しています。昨年度決算でも20億円の赤字を計上しています。しかし、八千代医療センターは地域医療の中核としての役割果たさなければなりません。

良心の勝利、ついに岩本理事長と理事全員が解任。新体制へ

これまで、大学卒業生や大学教授らによる岩本理事長の背任・横領疑惑への刑事告発や、推薦入試での不当な寄付金受領、架空人件費問題などで大学や理事長自宅への警察による家宅捜査など、凡そ闇の金にまつわる数々の事件について、8月に公表された第三者委員会の報告書では「理事長としての適格性に疑問」と批判され、辞職勧告しました。さらには8月7日、臨

時理事会が開かれ、ついに岩本理事長を理事長職から解任したのです。また、岩本理事長のイエスマン集団であった理事全員も辞任しました。これに伴い、12月から元内閣府審議官の清水治氏が新理事長に就任。理事であった八千代医療センターの新井田院長も辞任。副院長だった片桐聡氏（消火器外科）が八千代医療センター院長に就任しましたが問題はこれからです。

早期解決を求める署名3568筆を提出。服部市長は早期解決に動け

八千代医療センター問題は3年前から続いています。市民が主役の会はこの問題にいち早く取り組み、同問題の議会質問を行っている八千代市議会議員とも連携しつつ、地域での学習会や宣伝行動、そして署名運動も展開してきました。ここにきて改善に向けた情勢の変化も起きていますが、市民が主役の会の取り組みも、その一端を担ってきました。市民の声である署名

運動では3568筆を集め、12月11日には市長交渉を行いました。席上で服部市長は「新理事長に交渉する」と明言していますので、言葉だけでなく、即時に動くことが必要です。本年5月には市長選挙が控えていますが、任期中に宿題を残さないことが求められています。

